



【研究主題】

自己指導能力を身につけた児童生徒の育成
～個人や集団の良さを認め、互いに高め合う実践を通して～

【主な研究の内容】

自己指導能力を身につける（高める）ために、授業、学級活動、学校行事等の全ての教育活動において、昨年度の「自己決定の機会」と「自己存在感を感受することのできる機会」に加え、「共感的な人間関係を育む機会」を意図的に設定し、効果的な取り組みの在り方について、研究を進め、実践を行う。

自己決定の機会として

- ・児童生徒が自分自身で課題を見つけたり、選択したりできる授業の工夫
- ・児童生徒一人一人が自分の考えをもち、仲間の考えを受け止め、合意形成による決定ができる学級活動の工夫

自己存在感を感受することのできる機会として

- ・児童生徒がもともと持っているよさに気づき、そのよさを伸ばすための、気持ちの通う挨拶や声かけ、温かい言葉の励ましや賞賛、対話の充実
- ・異年齢の児童生徒がともに活動できる縦割り活動の工夫



共感的な人間関係を育む機会として

- ・全ての児童生徒が参加でき、対話することで、「できた」「わかった」という達成感を味わうことのできる協働的な活動の工夫
- ・異なる考え方や価値観をもつ人と学び合うことで、多様性について考えを広げたり深めたりできる道徳授業の工夫



Hyper-QU の結果を指標にし、効果的な取組について検討し、実践していく。